

いわき市立桶売小学校「学校だより」

おはつら

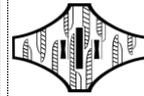
令和2年11月24日(火) 第37号 (発行者 校長 遠藤 修)

<教育目標>

- ☆進んで学ぶ子ども(知)
- ☆健康でたくましい子ども(体)
- ☆みんなで助け合う子ども(徳)

<校章の由来>

外形は学校を取り囲む山々を表し、その内側には健やかな成長と社会貢献を願い、杉の若芽が描かれています。



3校合同 見学学習



いわき震災伝承みらい館
かねまん本舗

20日(金)、川前地区3つの小学校で合同見学学習を行いました。

「いわき震災伝承みらい館」は、地震、津波に加え、原発事故が重なるという未曾有の複合災害に見舞われたいわき市の震災経験をあらためて捉えなおし、震災の記憶や教訓を風化させず確実に後世へと伝えていくことを目的として、今年の5月30日、旧豊間中学校跡地にオープンしました。

みらい館に到着後、館長さんに説明を受け、VTR視聴に続いて施設を見学しました。展示室では、豊間中学校で被災し修復された「奇跡のピアノ」を特別に弾かせていただきました。4年生が「花は咲く」を演奏すると、曲に込められた復興の願いとマッチし、大きな拍手が起こりました。

その後、語り部の方の案内で防災公園や元災害公営住宅、豊間小・中学校を巡りながら、津波の様子を聞かせてもらいました。避難の際の悲惨で生々しい様子に、子ども達だけでなく、引率した教員も言葉を失いました。市内で400名を超える犠牲者を出した大災害の教訓を生かし、防災の意識が高まることを強く願います。

昼食後に見学した「かねまん本舗」では、蒲鉾ができるまでの工程を説明していただき、作業の様子を見学しました。真剣にメモをとりながらお話をしっかり聞いていた子ども達。作られている蒲鉾の種類や量など、疑問点を次々に質問し、主体的に学ぶ姿が見られました。



被爆体験伝承者講話

川前地区小中学校が桶売に集まって被爆体験伝承者からお話を聴きました。

1945年8月6日午前8時15分に広島に投下された原子爆弾は、多数の一般市民の命を一瞬にして奪いました。当時、旧制広島第二中学校2年生だった1人の少年の生涯を通して、原子爆弾の悲惨さや、生き残った方々の苦悩について話してくださいました。

世界で唯一の被爆国に生きる私たちです。「悲惨な歴史にふれることで、未来の平和を考え、世界にどう働きかけていくか。」参加者一人ひとりがしっかりと受け止めていたようです。



～緑の募金学校緑化活動～ 花苗を植えました



先週の暖かな日の休み時間、子ども達が花壇に花苗を移植しました。今回植えたのは、パンジーやビオラ、アリッサム、キンギョソウなど、いずれも「緑の募金学校緑化活動」の助成金で買わせていただいたものです。

今回、植えきれなかったものは用務員さんの手を借りてプランターに植えたいと思います。

朝方、辺りが霜で真っ白になる日も増えてきました。厳しい冬を耐えぬいた花苗が、美しい花をつけてくれるのを楽しみにしています。



リアルタイム線量測定システムの数値(校庭)
0.090 μ SV/h 11/24 10:00
(文部科学省HPの放射線モニタリング情報)
<http://radioactivity.nsr.go.jp/map/ja/>

桶売小学校 電話 0246-84-2230
Fax 0246-84-2240
在籍児童数 男子2名 女子2名 計4名
<https://iwaki.fcs.ed.jp/桶売小学校>

